

平成29年度WAM助成モデル事業とは・・・

WAM助成の優良事業の中から、全国に普及させたい取り組みをモデル事業として選び、同様の活動を行う団体を募集することで全国各地に波及させるものです。



特徴

1

予め実施メニューが示されています！

特徴

2

WAMが情報交換やPRなどを支援！

特徴

3

自己資金の投入が不要！

平成29年度モデル事業 — 「居場所」運営を通じた子育て・子育て環境向上事業

必須
メニュー

「居場所」運営

子育て中の家庭を対象とした地域の「居場所」運営

地域の実情や課題等に応じた、民間ならではの柔軟で温かみのある場作りとするため、「居場所」運営では、これら全ての要件を満たす事業であること

子育て家庭等が気軽に集える「居場所」の開催
(月4回以上)



制度によるひろば事業等で対応困難であったり、分野横断的な対象者や担い手の受入れ

「居場所」の拠点機能を活かした子育て支援の講座・サロン等の開催

「居場所」開催時の相談支援

確実な事業運営のための連絡会

選択
メニュー

一緒に行くとさらに効果がある取り組み

- 地域の子育ての課題に対応したサービス提供
訪問支援、子育て情報の配信サービス など
- 人材確保・育成支援
研修会、ボランティア等の育成 など
- 普及・啓発活動
イベントやシンポジウムの開催
リーフレットやハンドブック作成 など

子育て中の孤立防止

地域の全体の
子育て支援力の向上

児童虐待の防止

新たなサービスの
創出

継続的な居場所運営

地域の子育てのプラットフォームとして定着し、子育て・子育て環境の向上に寄与

—「居場所」を軸とした事業による優れた活動事例—

1. 居場所を通して地域みんなの孤立を解消！

課題の背景

- ・日頃の活動を通して、若い母親が孤独に子育てを行っている「気になる家庭」を把握しはじめていた。
- ・一方で、高齢者の孤立も深刻化していた。

事業の概要

- ・自治体の乳児訪問と協力し、**訪問支援**を行う中で、居場所への参加につなげた。
- ・誰もが集える居場所とし、**手仕事サロン**などを開催しながら、子育てのベテランである**高齢者が若い母親の悩みを聞いた。**
- ・居場所で定期的に仲間作りのサロンを開催し、母親同士が悩みを日常的に共有出来る場に。

効果

- ・子どもを連れて安心して出掛け、孤立解消や仲間作りのできる場が創出された。
- ・高齢化が進む過疎地において、高齢者の孤立解消、新たな役割や生きがい作りにもつながった。

2. 子育て情報配信を支援のきっかけに！

課題の背景

- ・孤独な子育てを察知しても、若い母親は地域の集まりなどに出ていくことに慣れておらず、相談に結びつけることがまず最初のハードルとなっていた。

事業の概要

- ・親と子が気軽に集える居場所作りとともに、**一時預かりサービス**も実施。
- ・若い母親がよく利用する携帯を活用して、**子育て情報配信サービス**を実施。
- ・居場所に来るようになった母親が、参加する中で次第に情報サービスや相談の担い手に。

効果

- ・買い物や美容院の時など、制度ではなかなか対応できないちょっとした一時預かりで、リフレッシュの機会を創出。
- ・若い母親が親しみやすい携帯を活用し、支援のきっかけに。
- ・活動に参加する中で、単なる受け手から担い手へ。

3. サロン開催で父親の育児参加や仲間作り！

課題の背景

- ・核家族化が進む中、男性の育児参加のきっかけがなく、母親一人に負担が集中。
- ・多胎児や低体重児の親子は、さらに孤立する傾向。

事業の概要

- ・地域の子育て家庭を対象に、休日に**父親向けの育児講座**を開催。
- ・通常の居場所活動に加え、**育児講座、多胎児や低体重児に特化した相談サロン**を定期開催。

効果

- ・地域の男性の育児参加の促進だけでなく、虐待が疑われる家庭を、さりげなく支援に結びつけるよいきっかけにも。
- ・支援の足りない当事者の仲間作りや課題共有の場を創出。